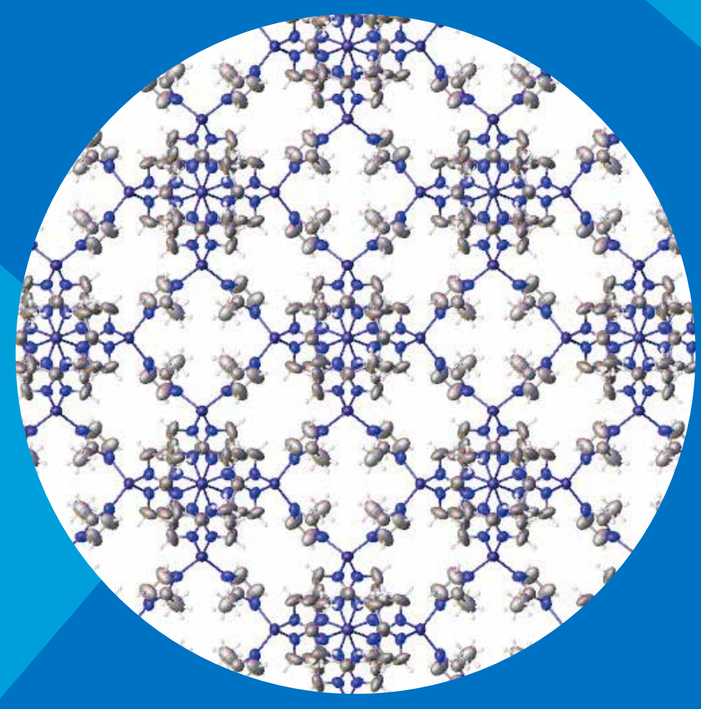
電子回折が導く
構造化学の未来

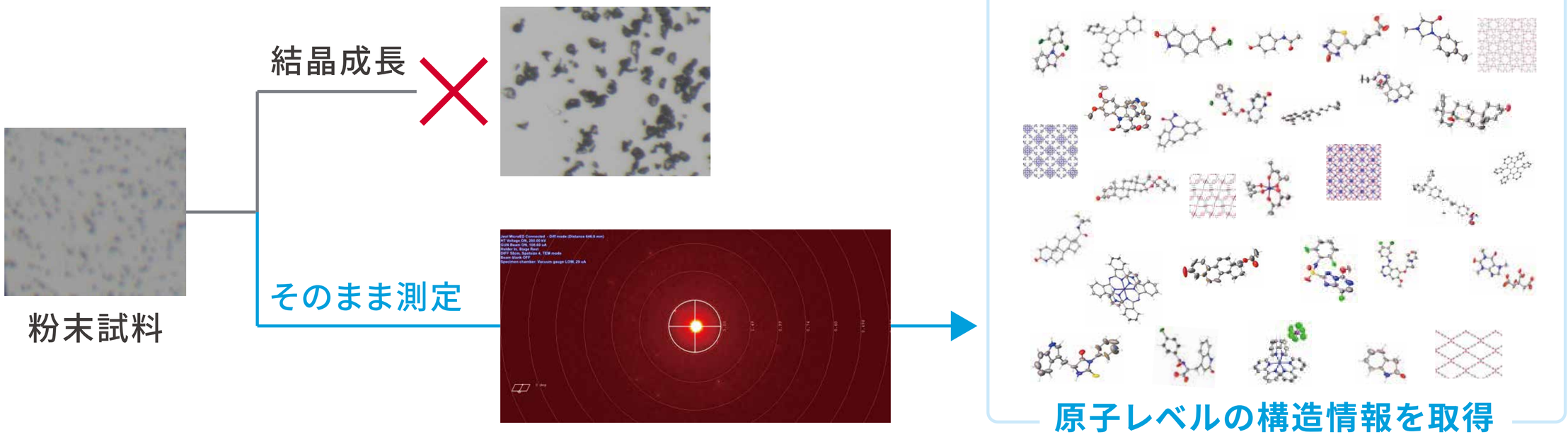
電子回折構造解析統合プラットフォーム
XtaLAB Synergy-ED



「粉末しかない」を、解析可能へ

結晶成長が難しい試料に、
新たな構造解析ソリューションを。

- 結晶性粉末なら、粉末から1つのグレインを測定すれば OK
- 有機・無機・錯体など様々な材料系に適用可能



MOF 研究を支えるリガクの構造解析技術

京都大学 高等研究院 アイセムス 特別教授の
北川進教授がノーベル化学賞を受賞されました

- 北川教授は、金属有機構造体（MOF：Metal–Organic Framework）をはじめとする多孔性材料研究を先導され、分子レベルでの物質設計という新たな科学領域を切り拓かれました
- MOF の研究にはその構造解析が必須であり、これまで単結晶構造解析装置や粉末 X 線回折装置など、リガクの各種装置をご活用いただき、物質の精密な構造解析および多孔性材料の創出において数多くの成果を挙げられています

オープンイノベーションで MOF 研究を推進

リガク、日本電子、iCeMS は、新たなオープンイノベーション組織を設立しました。
電子回折技術を活かし、MOF 研究の発展に貢献する装置開発に取り組んでいます。

Rigaku ⟷ JEOL
iCeMS KYOTO UNIVERSITY WPI Research Center

Rigaku

rigaku.com

© Rigaku Holdings Corporation and its Global Subsidiaries. All rights reserved.